

2013. 9. 7

名ホールの響き
第6回

ニューヨーク、カーネギー・ホール

プログラム

世界の有名なホールで演奏された録音を聴きながら、その響きの妙を楽しんでいただくシリーズ「名ホールの響き」の第6回目は、ニューヨーク、カーネギー・ホールを取り上げます。

カーネギー・ホールは1891年、アメリカの実業家で、鋼鉄王と呼ばれたアンドリュー・カーネギーによって建設されました。2804席の落ち着いた雰囲気を持つイタリア・ルネッサンス様式の石造建築物で、メインフロアと大きな曲線の回廊を四層持つ、“グランド・サークル”と呼ばれるタイプのホールです。残響は1.8秒と短かめですが、明晰で輝かしい響きと透明感を持つ名ホールの一つとして知られています。かつてはニューヨーク・フィルの本拠地でしたが、現在ではクラシック音楽のみならず、あらゆるジャンルの音楽家にとっての殿堂として輝き続けています。今回はホール創設75周年及び100周年の記念コンサートを中心に、巨匠ギリリスの弾く“月光ソナタ”、チェリビダッケが学生オーケストラを振った珍しい録音等を聴いて頂きます。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1826):
ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調op.27-2 “月光”

エミール・ギリリス(ピアノ)

(1969.2.2 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

★詩人レルシュターブがこの曲について、湖上に照り輝く月光を思い浮かべて形容しことから、この名が付いたと言われる。弟子の伯爵令嬢ジュリエッタ・グイチアルディに献呈された、ベートーヴェン31歳の頃の名曲。

ピョートル・チャイコフスキー(1840~1893):

ピアノ三重奏曲イ短調op.50 “偉大な芸術家の思い出のために” ~ 第1楽章

ウラディーミル・ホロヴィッツ(ピアノ) / アイザック・スターン(ヴァイオリン) /

ムステイスラフ・ロストロポーヴィチ(チェロ)

(1976.5.18 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

★1881年ピアニストで作曲家のニコライ・ルービンシュタインが亡くなった。その年にチャイコフスキーが、先輩で恩人でもあった、この“偉大な芸術家”への様々な思いを込めて完成させた大規模で緻密なピアノ・トリオの傑作。

ジョアキーノ・ロッシーニ(1792~1868):

歌劇 “どろぼうかささぎ” 序曲

セルジユ・チェリビダッケ指揮カーティス音学院管弦楽団

(1984.5.12 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

*** 休憩 ***

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770~1826):

合唱幻想曲op.80

アルフレード・ブレンデル(ピアノ) / ニューヨーク芸術協会合唱団

ジェームズ・レヴァイン指揮ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団

(1991.5.5 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

★正式名は「ピアノ、合唱、オーケストラのための幻想曲」。ピアノ・ソロによる即興的な第1部、オーケストラが入る第2部、合唱が入る第3部から成り、合唱の主旋律は「第9交響曲」の“歓喜の歌”とよく似ている事でも知られている。

アーロン・コープランド(1900~1990):

アメリカの古い歌 ~ ささやかな贈り物 / 遠い昔 / 川のほとり

マリリン・ホーン(メゾ・ソプラノ)

ジェームズ・レヴァイン指揮ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団

(1991.5.5 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

★1950年、大学図書館で見つけたさまざまなアメリカ民謡を第1集、第2集5曲ずつ、計10曲の曲集として編曲した作品。“ささやかな贈り物”は名曲“アパラチアの春”でも印象的に使われているメロディで、シェーカー教徒の聖歌。

グスタフ・マーラー(1860~1911):

交響曲第3番ニ短調 ~ 第6楽章

ズービン・メータ指揮ニューヨーク・フィルハーモニー交響楽団

(1991.5.5 ニューヨーク、カーネギーホールでのLive)

★マーラーの最高傑作に位置する作品で、特に第6楽章は感動的。夏静養中の大自然に囲まれ、靈感を得て生まれた。